



のとながわ 奉仕団だより

REDCROSS VOLUNTEER

特集号
(第30号)

発行者
東近江市能登川
赤十字奉仕団

のとながわ奉仕団だより 特集号発刊によせて

能登川赤十字奉仕団 委員長 田附弘子



当団結成70周年事業を滞りなく
終えた喜びに浸りながら、弥栄の
平和を念じ、地域の発展と幸せな
日々をと念じつつ辰年の元日を寿
いでいたところ、突然の不気味な
揺れに幸せ感は一転、「石川県能
登半島地震」の報道でテレビの前
に釘付けとなりました。取り急ぎ
対応処を打ち合わせ、被災者の
方々のご無事と一刻も早い復興復
旧を願って、直ちに募金活動に取
り組み始めました。早速、小学校
児童をはじめ各自治会、街頭、団
員さん方から善意の義援金をお預
りし、その優しいお心に触れ、被
災地皆様の生きる勇気につながれ
ばと思わずにはいられません。心
寄せてくださる皆様に心より感謝
申し上げます。

さて、この二年間は70周年事業
として広島県原爆投下の地に学ば
旅・奉仕団へのメッセージ募集・
福祉バザーの実施・記念誌発行な
どを、役員団員一丸となって取り
組み、大切な節目の記念大会も有
意義に挙行させていただきました。
ご支援賜りました皆様方に改めま
して深く感謝申し上げます。私た
ちは助けを必要とする人々に寄り
添いつつ、いのち・健康・尊厳を
守る「人道の実現」に努め、次世
代に繋ぐ決意を新たに致しており
ます。

また、役員改選の年でもありま
す。私事で恐縮ですが、一言お礼
を申し上げます。平成18年度より
当団委員長を務めさせていただき
ましたが、今期末に退き、新委員
長のもとに、一団員として地域の
皆様方と繋がり、支えあい、楽し
く活動に励みたく考えております。
皆様方には言葉に尽くせぬご厚情
を賜り、幸せな年月を過ごさせて
いただきました。今後の赤十字活
動に対して、皆様のより一層のご
活躍とご支援をお願い申し上げま
す。

令和6年度 能登川赤十字奉仕団 事業計画

(分団活動は除く)

- 4月 第1回役員会 (辞令交付)
- 5月 赤十字会員増強運動月間 (団員募集・会員募集)
日帰り奉仕と研修
- 6月 東近江市地区奉仕団リーダー研修・男性団員研修会
やわらぎの郷公園清掃奉仕・実技研修
園児と交流 (幼児園)
- 7月 ひとり暮らし高齢者見守り訪問 (暑中見舞い等)
- 8月 奉仕団員交流グラウンドゴルフ大会
ミニ広報発行 (29号)
- 9月 防災月間 (防災備品の点検・補充)
やわらぎの郷公園清掃奉仕・防災研修
奉仕団員一泊親睦研修
- 10月 ふれあいフェア (出店・献血に協力)
ミニ広報発行 (30号)
園児と交流 (幼児園)
- 11月 東近江市地区奉仕団一日研修
- 12月 ひとり暮らし高齢者見守り訪問 (年賀状等)
福祉施設雑巾贈呈
ミニ広報発行 (31号)
- 1月 園児と交流 (幼児園)
- 3月 奉仕団だより発行 (31号)
第2回役員会

●年間通して

- ・ 一声ふれあい運動の推進
- ・ 社会福祉法人真寿会奉仕作業
- ・ 防災・減災・感染症予防への取り組み
- ・ クロスカフェの実施
- ・ JRC活動の充実

※クロスカフェとは奉仕団員や以外の人々と、気軽に座談会・意見交換会を開き、地域の課題を解決するための話し合いのことです。

能登川奉仕団70周年記念事業紹介

令和4年・5年の2年間を通して事業を展開



70周年記念大会・式典

令和5年11月11日(土)午後1時から能登川コミュニティセンターホールで開催。当日は400名を超える参加者来賓として滋賀県三日月支部長に代わり西出事務局長を始めとする25名の方々を迎え盛會裏に挙行了しました。

一部では、表彰状・感謝状授与、一部では、記念講演の講師としてバイマーマンシン氏を迎え(チベット出身・大阪在住・声楽家)「今を生きる地域と共に」と題してお話いただきました。

〔表彰・感謝状の受賞者〕

地区長表彰 田附 弘子

地区長感謝状 北村 鎰子

藤田 明美

委員長表彰

北村 鎰子 宮川 浩美

田井中 愛子 小齊 由美子

富江 洋子 徳永 ミチ子

森野 鈴枝 若林 陽子

中村 三千代 富江 房代

北浦 義一

委員長感謝状

小南 ゆみ子 大澤 恵美

大橋 陽子

公益財団法人五峰興風会

滋賀県税理士協同組合

(敬称略)

70周年記念事業に協賛金をありがとうございました

公益財団法人五峰興風会

180,000円

能登川地区まちづくり協議会

100,000円

のがわ福祉の会

50,000円

滋賀県税理士協同組合

104,500円

ゆかりの地を訪ねて

記念事業として研修の旅を5月24日25日に実施、バス2台で70名が参加して広島赤十字原爆病院・メモリアルパークの原爆ドーム、資料館で学び千羽鶴を手向けました。

研修の数日前まで広島県において、G7首脳会議が開催されており、まさに世界平和を願う会議の会場を訪問。私たちは赤十字奉仕団員の信条にある「すべての人々と手をつないで、世界の平和に尽くす」を実感。資料館においては、当時の様子にくぎ付けになり、平和の尊さを改めて感じさせられた意義のある旅でした。

福祉バザーをやわらぎの郷公園で実施

地域の繋がりを大事に他団体の協賛をいただき実施しました。初めての屋外での催しで焼きそばコーナーを設け笑顔がはじける大盛況のバザーでした。4年・5年の収益は69万円でした。この収益金は70周年記念事業や義援金に活用させていただきます。



奉仕団員交流

グラウンドゴルフ大会

70周年を記念して初のグラウンドゴルフ大会を令和5年

8月17日にやわらぎの郷公園屋根付き広場で開催しました。スポーツを通じて、団員の交流を深め団結力を高めるとともに親睦を図り、和気あいあいと楽しい半日を過ごしました。

結成70周年記念誌発行

結成60周年以降の10年間の活動をまとめて記念誌を発行しました。表紙は、団員である小川脩哲氏の水車・カヌーランドの素絵画を提供いただきました。赤十字の理念「人道・博愛」の精神を大切にしながら、歳月の重さと多くの方々との出会いを思い出し、感慨ひとしおです。

次の80周年に向けて、先輩方が築かれた温かい奉仕の心を忘れることなく歩み続けてまいります。



70周年を記念して
奉仕団へのメッセージを募集

みんなが輝く赤十字奉仕団
「次世代にバトンをつなぐ奉
仕団メッセージ」を全戸募集

しました。

審査委員は県奉仕団指導講
師の箕浦捨男様、清水佐代子
様当奉仕団委員長の田附弘子
が厳正な審査を行い、結果は
次の方々です。

〈最優秀賞〉

・人道の十字輝くエプロンがペダル軽やか今日も走る
佐々生 美笑子(猪子)

〈優秀賞〉

・70周年まだまだ続く平和への願い 70周年未来へ絆ぐ奉仕の心
西村 二郎(尾笔台)

・人道と博愛をめざす先輩の背中にあこがれ入団す
奉仕活動のすばらしさ
若林 陽子(新宮東)

〈入選〉

・日赤活動心の支えおかげさまでの日々感謝
北浦 義一(鉢光寺)

・赤十字奉仕団に嫁いだ娘の入団を聞き
嬉し恥ずかし活躍祈る親心
今堀 百合子(乙女浜)

・広島を訪ねて気づくありがたさ奉仕の心仲間と共に
堤 久江(鉢光寺)

・他人のため いえ自分のため
広げよう共に支え合う奉仕団活動の輪
小南 ゆみ子(山路)

・奉仕の芽増やして育て次世代へ
居原田 妙子(栗見新田)

・老いた身の心に残る奉仕の日々あの日の思い出今は美しく
小嶋 房(栗見新田)

「次世代にバトンをつなぐ
奉仕団へのメッセージ」
募集の妙味に感動

滋賀県奉仕団指導講師
箕浦捨男

能登川赤十字奉仕団では結
成70周年を記念してユニーク
な事業が多彩に展開され、そ
の一つとして能登川地区在住
の皆様へ「次世代にバトンをつ
なぐ奉仕団へのメッセージ」
を募集されました。

その結果五七五調の俳句形
式を基本として、自由で任意
な形式による力品六一点が寄
せられ、私は選考・審査に関
わらせていただく縁をいた
だきました。

作品を順々に味読させてい
ただきますと、記念事業であ
る「広島研修旅行」への参加
で実感された「平和の尊さ」
や、長年取り組まれてきた奉
仕団活動をご自身の「生涯の
宝」とする思いなどが巧みに
織り込まれるなどして、「命
を守る活動」や「地域共生」
に携わる生き方を明日につな
げていこうと呼びかけるもの
が、多く目に留まりました。

選考が進む中、私は、個々
の表現の光る部分を比べ合う
一方で、この70周年の節目に

「なぜ広島なのか」そして「な
ぜ短くしたためるメッセージ
なのか」という、二つの企画
の「ねらい」真意について、
次なる気付きを得るに至りま
した。

今、私たちには戦禍に見舞
われることのない平穏な日常
が当たり前になっているのに
対して、ウクライナでは、軍
事侵攻を受けた「国土や人々
の不幸」が一年以上も続いて
おり、バーチャルではない地
獄の様相が、連日報道されて
います。

また、同じ地球上で平和が
脅かされている国や地域が多
々あります。

そこで、結成70周年の節目
を、平和への願いを、その対
極(戦争・被爆の不幸・G7
広島サミットの直後)から考
える好機と捉え、今、自分
たちが心新たに何に気づき、
何を為すべきかを自問自答す
る体験的な学びとするために
「平和祈念の広島研修」を企
画し、奉仕団の組織強化の起
爆剤にしようと考えたに違
いないと確信しました。

もう一つは、私たち赤十字
奉仕団の使命である「人道・
奉仕」の大切さを、長い文章
でアレコレ論じ合うのではな

く、誰もが頷ぎ、新鮮な感覚
で分かり易く再認識・共有で
きるよう、短く親しみやすい
形式にしたためた「明日への
道しるべ」の募集という企画
に特化して、地域住民の方々
に、問題提起(アピール)さ
れたというアイデアへの驚き
です。

これら二つの真意の具現の
程は、選ばれた作品が如実に
証明してくれています。

ここに、能登川赤十字奉仕
団の企画力の奥深さに改めて
羨望の思いで敬意を表します
とともに、今回選ばれた作品
が次世代にバトンをつなぐ応
援歌となりますことを切に念
じます。



お便り

能登川赤十字奉仕団70周年おめでとう存じます。委員長はじめ関係役員様方のご苦勞に感謝申し上げます。

私も70周年記念大会に参加させていただき、改めて感動の気持ちをお覚えました。私が奉仕団を語る時は、水本前委員長をさし置いて語る事が出来ません。先輩であり師であり、母の様に思い10年間共に活動させていただきました。ご病氣そしてコロナのせいもあり、久しぶりの出逢いが70周年記念大会で、思わず駆け寄り「50周年一緒にさせてもらったな」と声をかけ手を握りました。思い返せば、私が必要かなと思う災い事があり、慣れないせいで死ごみする私に「赤い十字のエプロンをしていればどこに行っても遠慮いらんよ、早くして」とハッパがかりあわてて行動に移したものでした。

四期目の役に入り二か月目に主人が急死しました。その時も一番に私宅に来て下さり「大変やったなあ」と声がかかりましたが、すぐ姿が見えなくなり表に出してみると一人で前庭の掃除をして下さいました。その時の委員長の姿は身をもって人を助け常に奉仕、奉仕とは人に命今されてするものでなく自分から進んで、人のためにつくすのよと教えられた気がして今も忘れる事が出来ません。

高齢になり足腰が悪く、活動に参加する事がむづかしくなりましたが、いつまでも人道博愛の精神を忘れず、団員である事に誇りをもって人生を過ごしたいと思えます。能登川赤十字奉仕団のますますの発展をお祈り申し上げます。

小嶋 房

奉仕団結成70周年を終えて

井口 禎子

昨年能登川赤十字奉仕団結成70周年を無事に終え、長年にわたり活動をされて来られた方々に心より尊敬と感謝をいたします。いよいよ80周年に向けての出発です。私の地区は結成されてまだ12年、歴史は浅いのですが、班長を受けて何よりの喜びは、奉仕活動に参加しながら、いろいろな方々と巡り合え親しくなれることです。たとえば一人暮らしの方々に訪問しますと、日々の暮らしで工夫されている事など、私の方が勉強させてもらいます。時には転げるほど大笑いして元気をいただきます。

この奉仕団活動を80年90年と続けていくには、皆様のご理解・ご協力は勿論ですが、一人でも多くの方々に入団していただく事だと思えます。奉仕団発足当時と社会状況は変わり核家族化と共に、今は70歳以上でも元気に働かれています。「奉仕団活動する暇がない」「いろいろ大変や」と聞く事がありますが、入団して活動していると、感動する

事や社会との関わりの大切さ、楽しさを痛感する事が出来ました。誰でも気軽に入団出来る奉仕団、その為には活動内容や、取り組みの方法など知恵を出し合っていきたいと思



小中学校長に日赤の創設者佐野常民の絵本贈呈

赤十字奉仕団の一員として

富江 貞子

奉仕団に入団して、十年となります。まだまだ知らない事ばかりですが、班長の役目をいただいで、様々な行事に参加させて頂き多くの事を学べる良い機会を持つことが出来ました。

今年は、当奉仕団結成70周年という記念すべき大きな節目

目に出合えて、大変光栄に思っています。長年にわたり様々な努力を重ねてこられた多くの諸先輩方の活動が今日に続いているのだと実感しました。

記念講演では、チベット出身のバイマヤンジン氏のお話を聞いて、生活や文化の違いで、私たちの地域とは、大きな違いを感じました。又、チベットの地震では、日本赤十字社の協力があつて、大変うれしかったと話されました。自然災害はいつ・どこで起こるかわかりません。災害だけでなく、超少子高齢化も進んで、私の地域でも、例外ではありません。そういう私もこの先、五年・十年経つにつれ、いろいろな方の助けが必要になってくると思っています。そのためにも、地域のつながりで支え合いながら、少しでも奉仕団の一員として協力していきたいと思っています。

何よりもひとり一人が利己的にならず、お隣どうし声をかけあってお互いを見守る、そんな赤十字奉仕団の意義を理解していただき、一人でも多くの仲間が出来る様に、これからも活動していきたいと思っています。

沖島紅葉クルーズに参加して

桂田 千津子

昨年11月5日、第一分団の役員21名の参加で、エプロン姿のりりしい活動時とはまた違った、やわらかな表情の皆様と、小春日和の沖島クルーズを満喫しました。集合時間の早さは、流石日赤奉仕団ならではです。

沖島では、島のガイドさんの案内のもと民家の路地裏を巡りながら、島の歴史・文化に触れることができました。初めての私は、とても懐かしい香りの昭和なたずまいに魅了され、役をお受けしたお陰で今日という日があるのだと感じた瞬間でした。

班長さんの名前も覚え、その時々で字の活動等、意見交換をしながら、いつの間にかお話も弾み、初めての出会いからもう少し踏み込んだ繋がりができました。

今回は、結成70周年記念大会開会目前の決起集会も兼ねての集まりで、神社では記念大会の成功を祈願しました。分団の皆さんと心一つにして、より一層結束が固くなったと感じたひと時でした。

このような企画を提案して下さった川南の班長さんに感謝です。私自身微力ながら活動を通じて多くの方々とお会い、すこく世界が広がったこの頃です。



誰もが参加しやすい奉仕団活動の継続を

里田 牧子

年明けから石川県を中心とする地震が発生し、多くの方

々が被災され今も避難しておられます。心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈りいたします。

この辺でも大きな揺れを感じ、ヒヤリとしました。やはりいつ起きるともわからない災害に、日頃からの備えが必要だと思いました。ニュースで取りあげられている状況を見聞きしても、支援が届くまでには時間を要し、まずは身近な地域の皆さんが助け合っ

ておられる様子が多々映し出されています。普段から地域での人と人との繋がり大切さを改めて認識することになりました。もし、自分の住む地域で起こったら何かできるだろうが、新年早々感じさせられました。

山路班では自治会での自主防災への取り組みに参加し、年4回の自治会館清掃で団員同士のつながりを深め、それを地域住民のつながりへ広げていけるよう今後も活動していきたいと思えます。

今まであまり活動していなかった私が班長をさせていただき、何もわからないところ、団員の皆さまは快くご協力くださり、本当にありがとうございます。誰もが活動に参加

しやすく、奉仕団活動が継続していけるよう、これからも奉仕を続けていきたいです。

奉仕団親睦グラウンドゴルフ大会

西村 二郎

赤十字奉仕団結成70周年の年を迎え、記念式典の準備が進む中、男性部役員に欠員が生じたことから、急遽男性部副部長に推挙され、合わせて70周年事業実行委員に任命されました。

早速、男性部で70周年記念事業としてグラウンドゴルフ大会を実施することになりました。

趣旨は「奉仕団員が一堂に会し、互いの健康増進のため日々の活動を情報交換しながら、親睦を深めることを目的とする。」であり、開催時期は諸事業の関係もあり猛暑が予想される8月17日で延期無しと決まりました。

会場は雨天でも支障なく競技でき、炎天下であっても直射日光が避けられるやわらぎの郷公園屋根付きグラウンドに決定しました。

次に参加者の募集は、700人の団員の中から何人位の



参加になるのかはじめての催しだけに心配の種でした。役員だけの参加では意味がないし、かといってあまり大勢の参加者では会場が狭く競技が出来ないなど、申し込みの締め切りを待つしかないかと開き直りの心境でした。

56名の参加となり、無事成功裏に終えることが出来ました。

日頃は奉仕団活動で活躍されている皆さんが、こういたりフレッシュもいいたいのではないかと思えます。

令和5年度 善意のご協力 ありがとうございました



県支部に送金させていただきました 令和6年能登半島地震災害義援金

- ・個人様(5名) 470,000円
- ・能登川西小学校児童会 63,433円
- ・能登川南小学校児童会 126,395円
- ・募金箱設置(4ヶ所) 78,928円
- ・能登川赤十字奉仕団 100,000円
- ・街頭募金 291,918円
- ・自治会・奉仕団募金 183,773円

- 2023年トルコ・シリア地震救援金 15,837円
- 2023年アメリカ・ハワイ火災救援金 10,000円
- 2023年モロッコ地震救援金 10,000円
- 2023年リビア洪水救援金 10,000円
- 2023年アフガニスタン地震救援金 10,000円
- イスラエル・ガザ人道危機救援金 10,000円
- チベットの教育支援・学校建設への寄付 50,000円
- NHK海外助け合い寄付金 10,000円
- 令和5年5月能登地方地震災害義援金 10,000円
- 令和5年台風第2号等大雨災害義援金 10,000円
- 令和5年6月30日からの大雨災害義援金 10,000円
- 令和5年7月7日からの大雨災害義援金 30,000円
- 令和5年台風第6号災害義援金 10,000円
- 令和5年台風第13号災害義援金 10,000円
- 共同募金寄付金 20,000円
- 火事見舞い 20,000円

- 一円募金 24,470円(活動資金)
- 雑巾 360枚(幼児園・小中学校・福祉施設)
- アルミ缶 188kg(能登川作業所)
- ブルトップ 1.3kg(能登川作業所)
- ペットボトルキャップ 101kg(能登川作業所)
- 古切手・テレカ・ベルマーク (善意銀行)

(令和6年2月29日現在)

東近江市能登川赤十字奉仕団役員名 (令和6・7年度)

顧問	監事	監事	参事	参事	男性部副部長	男性部副部長	第四分団副団長	第三分団副団長	第二分団副団長	第一分団副団長	第一分団副団長	第四分団副団長	第三分団副団長	第二分団副団長	第一分団副団長	副委員長	副委員長	副委員長	委員長
問本	水田	出路	徳永	井口	北浦	西村	清水	林村	西村	沖田	居原	辰巳	田中	高田	中村	村林	大小	中村	若林
ミ江	弘子	茂久	ミ子	静枝	義一	二四	喜三	又蔵	俊子	幸子	ひろみ	うめ	美恵	春美	清美	ゆみ	三子	陽子	陽子

栄町	佐野	佐生	きさ	泉登	能女	伊宮	乙宮	新宮	新宮	阿弥	川光	小光	鉢光	垣今	新種	神勝	長勝		
射庭	南本	松梶	石路	山永	徳永	石梶	脇田	居原	若林	西野	奥村	小嶋	堤嶋	加藤	上林	大橋	大橋	清水	藤野
由美	直子	幸子	真千	照代	ミチ子	真千	佳子	敏子	たか子	敦世	幸美	久江	史子	めぐみ	悦子	良子	和子	富美	美代

第四分団班長	第三分団班長	第三分団班長	第二分団班長	第一分団班長	第一分団班長	役員
村林	田附	浅井	山本	居原	中井	清水
又蔵	利隆	順温	善一	善嗣	良修	昭昭

男性部

大栗	栗見	福見	山新	猪林	本町	班名
居森	森田	大田	平橋	澤田	小谷	班長名
、鈴	智枝	和子	み美	千江	鶴子	雅美

温かい義援金を能登川奉仕団に

能登半島地震で被災された方々に西小学校と南小学校の児童が募金活動をした義援金を持って来てくれました。一方奉仕団でも震災後早速JR能登川駅前や大型スーパーで募金を呼びかけました。また、自治会でも募金活動にご協力いただき感謝致します。



あとかき

日赤名誉総裁であります皇后陛下の長女愛子様が、本年4月から日本赤十字社の嘱託職員として就職されるニュースに私達は大変嬉しく、誇りに思え、ヤッターという感じでした。

令和4・5年の2年間で、70周年記念事業を企画し、数々の事業を行いました。関係の皆様のご協力のおかげと感謝申し上げます。有難うございました。

本年は、役員改選の年度であり、田附弘子委員長が退かれ顧問として見守っていただきます。今日までのご活躍に感謝と敬意を表したいと思っております。

今後は新たな委員長のもとで役員一同懸命に人道博愛の精神で、奉仕団の信条を胸に精進してまいります。

皆様方のご支援、ご協力をよろしく願います。